

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2016年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2017年 4 月 20 日 提出

1. 研究課題名	
中世語彙画像対照データベースの構築に関する基礎研究 英文標記: A Research on the Construction of a Database on Medieval Vocabulary and Its Visual Presentation	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
X. Jie YANG (ヤン ショオジェ)	カナダ・カルガリー大学
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
赤間 亮	立命館大学

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
デジタル環境の発達は、歴史や文学などの分野における古典の研究に新たな可能性と、かつてない課題をもたらした。本研究は、絵巻解読や研究の基礎環境を整えること目指し、画像と文字を融合し、双方向に行き来するというこれまで存在しなかった内容や様式の情報を作成しようとする。とりわけ同じテーマをめぐる詞書と画像という異なる表現媒体を併せ持つ絵巻の構成に着目し、中世の語彙と画像との対照を明らかにし、デジタル環境を用いる縦横に検索するリソースを研究者や絵巻の読者に提供する。
5. 研究成果の概要
このプロジェクトは、今年度において「基礎研究」の部分しか達成できず、当初から掲げていた成果の一部であるデータベースの構築までには届かなかった。繰り返しいろいろなアプローチを模索する過程において、古典画像資料と、その内部に入り込んだ情報の掘り出しと表示についての可能性、問題点、そして理想的な技術の対応などをめぐり、一層具体的な認識が得られた。なお、そのようなデジタルリソースの構築を目指して、研究対象である中世絵巻における詞書の電子テキストを作成した。
6. 研究業績

(2) 論文

・「夢の構図―絵巻の文法からのアプローチ」、荒木浩編『夢と表象:眠りとところの比較文化史』、2017年1月、勉誠出版、272-286頁

(3) 研究発表等

・「デジタル時代と古典研究―画像資料のあり方を手がかりに―」(基調講演)、2016年7月29日、日本語の歴史的典籍国際研究集会、国文学研究資料館

・「物語る絵とその変容-絵巻の射程-」、2016年10月12日、大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出キックオフ・ミーティング、国際日本文化研究センター

・"Text, Links and Motion: A Classical Kana Learning in Action through Web", 2016年10月14日, Japan Studies Association of Canada 2016 Annual Conference, Japan Studies Association of Canada

(6) 受賞学術賞

・日本政府、旭日小綬章、2016年5月